



南魚沼の11月。
行楽シーズンだけど、どこんしょも冬支度が忙しい。
大根を干したり、野沢菜を洗ったり、干し柿に、雪囲い。
そう、南魚沼のそこらじゅうは冬支度真っ只中だ。

中でも、豪雪から家や庭木を守るため
雪囲いは必ずやらなければなりません。

雪囲いに使う材料は荒縄(わらで編んだ縄)、
竹、木の棒、杭、板などです。
荒縄を作る作業は
昔、農作業のできない冬の仕事だったそうです。
稲を干すためのハッテを組み立てる時など
いろいろな使い道があり、荒縄は沢山必要としていました。
そして、昔は貴重品でもあったそうです。
結び方も必要最低限の量で、しっかり結べるやり方があります。
造園業の方なら初歩の初歩の結び方なのですが、
どこの家庭も使いこなしています。
私には技としか思えません。

どの庭木にどんな材料で囲いをするか…。
囲いに使う木材などは、毎年決まったところに収納してあって使い回し。
木は一本余る事も、足りなくなる事も無いようにしなくては…。
これは、並大抵の技術ではありません。まるで知恵比べ。
池の中の木の囲い。背の高い木の囲い。
つなげて囲う。下から支える囲い。

竹、板、木。時には鉄パイプ。
これはもう芸術でしょう。

美しい雪囲いというと、
日本三名園の石川県金沢市『兼六園』の『雪吊り』が
冬の風物詩となっているが、南魚沼の雪囲いとは趣がまるで違う。
南魚沼の雪囲いは、雪がどっさり降ってからでは見る事はできない。
なぜなら、雪にすっぽり埋まってしまうから(笑)

雪囲いのやり方も、その家その家の工夫があって実に面白い。
何気なく見ている『雪囲い』。
それは豪雪に耐える人々の知恵でもあります。
秋の南魚沼を訪れた際には
芸術的な冬支度をぜひご覧ください。